

## 助成事業実施報告書

団体名 社会福祉法人一粒会 坂梨ホーム

代表者・役職名 氏名 ホーム長 橋本由佳

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

食でつながる職業支援

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1981年よりアジアの子どもたちの里親として「家族」を創り、その後1985年に種々な事情で親や家族と暮らせない日本やアジアの子どもたちが共に仲間として暮らすことができる「家」づくりを意図して、児童養護施設「野の花の家」開設。その後、アジア人母子のシェルター(現「FAHこすもす」)、児童家庭支援センター「ヴィオラ」、ショートステイや学童保育、自立援助ホーム「坂梨ホーム」や児童発達支援事業所「結」を開設運営。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

本ホームは、平成27年10月にオープンしました。ホームの子どもたちは、突然今までの生活を失い、「自立」することを迫られています。虐待されてきた子ばかりです。大人への不信感、自分に対する無力感、社会への怒り…ぶつけようのない気持ちを抱えて生活しています。食べることを通して、癒され、社会参加していく力をはぐくみたいと考えています。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「食べる」ことは、「人」+「良」と書きます。一人ぼっちで食べていた食事、コンビニの食事、あたたかい食事、それぞれ「食」の思い出があります。「食べる」ことは、命をつなぐこと。ホームには、畑があり、果樹もあり、一年を通して様々な風景を見ることができます。「食」を通して、食べる場所をつくる、野菜を育ててみる、料理を作ってみる、食卓を飾ってみる、誰かのご飯を食べてみる、誰かに食事を作ってあげる、いろいろな人の協力をえながら、生活を作っていく経験を子どもたちと共に実施します。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今回のプロジェクトで、一番変化が起こったことは「子どもたちが積極的になったこと」です。一年をかけて、緩やかに断続的に「食」へのアプローチを続けました。季節の野菜作り、果樹を加工し、大人の創意工夫が徐々に子どもたちに浸透し、食事の写真を撮ったり、家族の思い出を話したり、思い出の味を再現する子どももいました。

二つ目は、「大人の視点」が大きく変わりました。大人というのは、私たちスタッフ、講師の先生方、ボランティアのみなさんです。大人側が偏見に気づいたり、私たち一人ひとりができることを考えるきっかけになったり、皆さんの活動の新しい一歩へとつながりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

漢方薬のように、じわじわと浸透していくテーマであったと思います。今年度、地域とのつながりができ応援団となったださる出会いがたくさんありました。子どもたちが「働く」とは何か、「大人」になっていくことは幸せなのか、と宿題をくれます。いろんな大人の方と交流しながら、自分の親以外の大人を見て、自分の未来へすこし興味がわくような時間を作っていきたいと思っています。また、地域ではこども食堂が盛んに活動されています。ホームの子どもたちが、少し過去の自分を応援するような機会を作っていきたいと考えています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし